

「岩脈の尖端」



所内 第3回写真コンクール 入選作『岩脈の尖端』地質部 角 清 愛

ふつう野外の露頭で既存の岩体の構造を切る板状の岩体として現われる岩脈は、その延長方向では、くさび状をなして消滅すると考えられるが、実際にそれを目撃する機会は少ない。

南伊豆の海岸に露出する第三紀火山岩類中に、たまたまこの例を示す安山岩の岩脈がみられた。写真中央の節理の発達した岩体がそれで、周りはそれに貫かれる火山角礫岩である。岩脈の上方の火山角礫岩中には岩脈と走向を同じくする多くの剪断面がみえるが、これらは集つて一つの剪裂帯を作つており岩脈はこれに沿つて進入したものである。岩脈の上端は割目に沿つてしみ込んで多くの小さな枝を出しているが、特に中央部では真にくさび状をなして割目に突入している。

また、一般の岩脈でみられる冷却面に垂直の柱状節理および平行の板状節理は、ここではそれぞれ放射状および同心円状の節理となつて現われている。

このような火山岩地帯の岩脈は地下火山活動として広義の火山作用に含まれるものであるが、あえて「尖端」と名づけたこの岩脈の形態は地下深所からマグマを上昇させる火山作用の偉大なエネルギーを物語っている。

創立75周年スポット・ニュース

地質調査所は明治15年2月13日(1882)に創立し本年(1957)は75周年に当る 創立当初は地質土性 分折 地形 庶務の5係で所員47名であつたが現在では地質 鉱床 燃料 物探 技術の5部と資料 企画 庶務の3課および地質相談所 北海道支所のほか6駐在員事務所をおき総員460名である

••地質調査所の出版物••

•地質調査所月報(第7巻第12号)

【報 文】

- 蔵田 延男 本間 一郎 尾崎 次男: 静岡県安倍川水系工業用水源地域調査報告 東海地域調査 第9報 -
- 岸本 文男 塚本 由三: 山口県桜郷鉱山含銅磁硫鉄鉱床および銅・鉛・亜鉛鉱床調査ならびに試錐調査報告
- 本間 一郎 小尾 中丸 小野 吉彦 杉山 光佑: 愛知県西部地域工業用水調査報告

【概 報】

- 番場 猛夫 五十嵐 昭明: 北海道室蘭鉱山の含チタン砂鉄鉱床調査報告
- 原口 九万: 大和水銀鉱床の賦存状態について

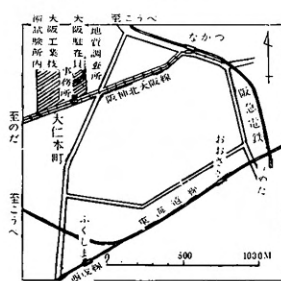
【雑 報】

- 上野 三義 土井 啓司: 島根県下の含チタン砂鉄鉱床調査報告
- 清島 信之: 福井県下の含チタン砂鉄鉱床調査報告
- 松村 明: 北海道 上川郡 下川町 北部地区の砂チタン鉱床調査報告

【抄 録】

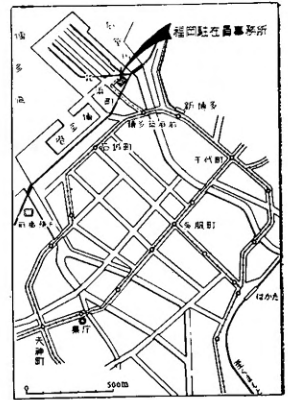
地下水の不安定運動方程式におけるμ係数の決定方法について

お知らせ:—



○大阪駐在員事務所は4月1日下記へ移転した
 大阪市大淀区
 大仁西2丁目
 (大阪工業技術試験所内)
 地質調査所
 大阪駐在員事務所
 Tel. (45)—7019

- 福岡駐在員事務所は3月10日下記へ移転した
 福岡市北浜
 2丁目19番地
 地質調査所
 福岡駐在員事務所
 Tel. (2)—6743
- 地質調査所広島駐在員事務所に通話電話が開通した
 Tel. 中 (2) 1945



訂正 特集No. 11の7P小鴨鉱山鉱石のオートラジオグラフの説明文の(露出時間は約100分)は(露出時間117時間40分)にP13右写真はさかさ 16P地名索引の中度最下部の西字部に※を 右下10行目 Econehic および Economle は Economic に訂正